



70年万博「テーマ館」への展示目的で集められた民族資料
そこには思いもかけないドラマがあった！

資料集年万博

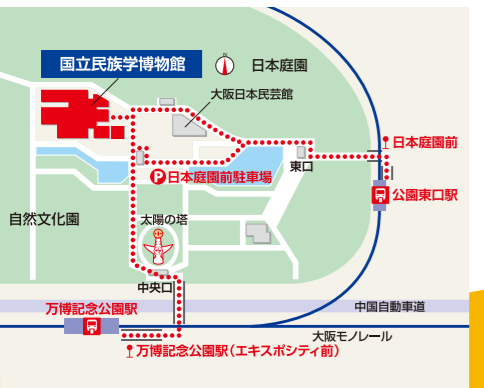
「特別展」国立民族学博物館開館40周年記念
太陽の塔からみんなはくへ

Special Exhibition
A 'Tower of the Sun' Collection:
Expo'70 Ethnological Mission



- 関連イベント** ※詳細については随時ホームページでお知らせします。
- みんなくゼミナール** 場所：本館講堂 時間：13:30～15:00(開場13:00) 定員：450名 申込不要、参加無料
- 3/17(土)「万博資料収集団—太陽の塔に集った仮面、神像、なりわいの道具」
講師：野林厚志(当館教授)
- 4/21(土)「EEMという「運動」」講師：松原正毅(当館名誉教授)、野林厚志(当館教授)、丹羽典生(当館准教授)
- みんなくウィークエンド・サロン — 研究者と話そう** 時間：14:30～(30～60分) 申込不要、要展示観覧券
- 3/11(日)平井京之介 3/18(日)伊藤敦規 4/1(日)日高真吾 4/8(日)川瀬慈 4/15(日)丹羽典生
4/22(日)南真木人 4/29(日)鈴木紀 5/6(日)吉岡乾 5/13(日)三島禎子 5/20(日)新免光比呂
5/27(日)卯田宗平
- ギャラリートーク** 特別展開催期間中の土曜日に展示案内をおこないます。

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology



【大阪・万博記念公園】
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
Tel:06-6876-2151(代) Fax:06-6875-0401 www.minpaku.ac.jp/

◎開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
◎休館日 水曜日(3月21日(水・祝)は開館、翌22日(木)は休館)
◎観覧料 一般420円(350円)、
高校・大学生250円(200円)、
中学生以下 無料
*本館展示もご覧いただけます。
*観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

◎大阪モノレール 「万博記念公園駅」、
「公園東口駅」徒歩約15分

◎バス 阪急茨木市駅・JR茨木駅から
「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」・
「日本庭園前」下車徒歩約13分

◎乗用車 万博記念公園
「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。

※高校・大学生・一般の方は自然文化園(中央口、西口、北口)窓口で、当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。※小・中学生が自然文化園(有料区域)を通行される場合は、自然文化園(中央口、西口、北口)有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、無料通行券をお受け取りください。※東口からは、自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。※東口または日本庭園前駐車場から来館し、自然文化園(有料区域)を通行していただく場合は、同園入園料が必要です。

**みんなく
無料シャトルバス**
会期中の土曜・日曜・祝日に、
みんなく直通送迎バスを
大阪モノレール「万博記念公園駅」と
みんなくの間で運行します。
ぜひご利用ください。
運休日：平日、4月21日(土)、22日(日)、
28日(土)、29日(日・祝)、30日(月・振休)
※臨時に運休することがあります。
詳細は本館ホームページをご覧ください。

2018 3.8thu. → 5.29 tue.

【会場】国立民族学博物館 特別展示館
【開館時間】10時～17時(入館は16時30分まで)
【休館日】水曜日(3月21日(水・祝)は開館、翌22日(木)は休館)
◎主催 = 国立民族学博物館
◎協力 = 朝日新聞社、大阪府、一般社団法人関西環境開発センター、京都新聞社、
産経新聞社、一般財団法人千里文化財団、日本経済新聞社
◎後援 = 毎日新聞社、読売新聞社

国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

1960-68 万博前夜

高度経済成長によって先進国が謳歌した物質文明は、我々人類に、人口の爆発的増加、食料生産の限界、資源の枯渇、環境汚染の拡大、公害といった地球規模の課題をつきつけた。そんな時代に「人類の進歩と調和」をテーマとした日本ではじめての一般博、「大阪万博」が構想された。



東海道新幹線開業 日本初の石油化学コンビナート 東京オリンピック

世界全体を描こうとする はじめての営みが託されたのは 日本の若き人類学徒たちであった。

選ばれし若き学徒たちは、限られた予算と時間の中で、資料収集に挑んだ。本展示では、彼らが1968年9月から約1年の間、世界中で収集した約2,500点の民族資料の中から約650点を展示するとともに、60年代という世界が大きく動いていく状況のなかでの民族文化や地域社会の様相、博覧会が果たす役割、そして「民族学博物館」へ受け継がれた精神を描きだす。

むき出しの 展示

テーマ館「太陽の塔」のチーフ・プロデューサー岡本太郎は、「根源の呼び声と対話できるようなむき出しの展示」を構想した。世界中から本物の資料を集めることは必然だった。



写真提供：大阪府

限られた時間と予算で 世界に挑む 1年間と6,000万円

計画から荷物が日本に到着するまで約1年間、予算は6,000万円。団員と留守を預かる事務局とで綿密な収集計画がたてられていった。収集活動が終了した時点の残額は440円。めいっばいの収集だった。

収集総資料数 2,500点

世界中から約2,500点の資料が収集された。このうち、テーマ館地下に展示されたのは、海外資料1,282点、日本資料124点であった。

品名	数量	単位
土器	1,282	点
木器	124	点
石器	10	点
骨器	5	点
金属器	2	点
織物	1	点
紙	1	点
その他	1	点
合計	2,500	点

万博資料 Expo'70 Ethnological Mission 収集団

正式な名称を「日本万国博覧会世界民族資料調査収集団」とするこの収集団は、1970年に大阪府吹田市で開催された日本万国博覧会のテーマ館であった太陽の塔の内部に展示する民族資料を世界諸地域から収集することを目的として結成された。

収集団員の熱い想い 現地通信

団員の多くは、収集の様子を手紙にしたためて収集団事務局に送った。そこには現地で奮闘する若い団員たちの姿が描きだされている。



万博から みんなぱくへ

大阪万博の跡地に、国立民族学博物館が開館したのは1977年11月。文化という視点で自らも含めた世界全体を描きだすという万博資料収集の精神は、それを裏打ちする研究と表裏一体となつて、今もみんなぱくに受け継がれている。

太陽の塔の モデル？ 太陽の塔が モデル？

オセアニアのニューヘブリデスで収集された両手を広げた神像を見た岡本太郎は一言、「太平洋の民は昔から岡本太郎のまねをしていたんだ」と。



太陽の塔に 集った 仮面と彫像

万博資料収集の対象は、「仮面」、「神像」、「その他」の3つのカテゴリーに分類され、集められた資料は、太陽の塔の地下に、「根源の世界」というテーマで展示された。進歩を象徴する空中調和を象徴する地上が、大阪万博の表のテーマであるならば、地下に集った世界の資料は、万博の文字とりのアングラなテーマを担った。

70年大阪万国博覧会「人類の進歩と調和」をテーマに、1970年、大阪府吹田市の千里丘陵を会場として開催。世界各国や地域、民間企業の展示施設は118を数え、3月から9月までの会期中に当時史上最多の約6,421万人が訪れた。



みんぞく

